
Crazy for you

アンデッド

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

Crazy for you

【Nコード】

N5666F

【作者名】

アンデッド

【あらすじ】

永遠に続く放課後で兄妹が始める、禁じられた遊び。そして、新たな創世記が再び始まった。一部コミカル且つシニールに描く新世紀ダークファンタジー！

拳ほどの大きさをした鉄の塊が、凄まじいスピードで僕に向かって飛んでくる。

飛んできたその鉄の塊を、僕は素手で空気を包み込むように素早くキャッチすると、電光石火の反応で彼女に投げ返した。

夕闇迫るこの空き地で、もう何度となく繰り返されたやり取りだ。低空で高速飛行する鉄の塊は、唸りをあげ地面の砂埃を巻き込みながら、彼女の方へと飛んでいく。

今までと同じく、彼女も飛んできた鉄の塊を華麗にキャッチしようとする。

だがキャッチしたその瞬間、彼女の手中で鉄の塊は爆発した。

その衝撃で、彼女の手は弾け飛び、華奢な腕も吹き飛んでいく。

肉片や、血や、骨。

彼女は自分のそれらを、爆風と同時に空中や地面、四方八方へ撒き散らす。

爆発と同時に四散した鉄片も、彼女の柔らかな白い肌を容赦なく剥ぎ取り、美しい全身に次々と突き刺さっていった。

「もー、またお兄ちゃんの勝ちかよー」

彼女はフリフリのミニスカートで地団太を踏みながら、ふくれっ面で不服そうに言った。自分が負けるといつもこうだ。何はともあれ、勝敗はついた。

妹お手製の特殊な手榴弾、それを使つてのキャッチボール。キャッチして爆発すれば負け。サドネスルールの一本勝負。

かなりの数が散々空中で爆散して、実に手こずりはしたが、やっ

と勝負がついた。

彼女は、負けると途端に機嫌が悪くなる。だがそれは、僕にとっては好都合だった。

もし彼女に勝ちがいつて、そのまま調子づくようなことになられば。

『ごめんねー、また勝っちゃった。今日これツイてるかも!』

愛らしい満面の笑顔を見せるであろう、邪悪な妹。

機嫌が良くなって、次第に輝き始める。

そんな彼女が、次に口にする台詞は。

『お兄ちゃん、こうなったら覚悟してね。今日は長い夜になるから!』

なんてことに、また成りかねない。

「お兄ちゃんの、バーカ!」

彼女が言い放ち続けている様々な罵詈雑言。

そんな野次など、勝利の美酒に酔いしれている僕の耳の中には、一切入ってこない。という振りをしていた。

彼女は好き勝手に野次を飛ばしながらも、早くも治っているその右腕で、自分の身体に刺さった鉄片を器用に抜いている。

「負け貧乳の遠吠えか。だけど吠えるなら、胸は無理でも先ず左腕を治してからにしろよ」

僕はわざと馬鹿したような口調で言うと、彼女はムツとした顔を見せた。

そのあと、彼女はふわりと宙に浮き上がる。

そして右手だけであっかんべーという憎たらしい表情をしながら、そのまま空き地からどこかへと飛び去っていく。下からは見たくもないパンツが丸見えだ。

しかし作戦は成功。

妹という最大の邪魔者は、この場からは消えた。

これで彼女の機嫌が直り戻ってくるまでの間、暫くは僕だけのプライベートタイム。

空き地の隅に備え付けてある、テレビデオ。

テレビの電源を入れて、ビデオのチャンネルを合わせながら、僕は思案した。

今回の『手溜弾キャッチボール』で、トータル十戦目、戦績は五勝三敗二引き分け。先のその勝利で、新潟県は僕の物だ。次に賭ける土地の候補は宮城県。

さて、今度はどんな競技にしようか。まあ僕が思いつかなくとも、きっと彼女の方からまた持ち掛けてくるだろう。彼女はそういう類のことを次から次へと考え出すのが大好きなのだから。

それに僕達には、時間なんていつまで経っても腐るほどあるのだ。それこそ永遠に。いや、本当はそんなことなど……。少なくとも、今はどうでもよかった。この瞬間はそれよりも。

空き地の向こう側の隅に置いてある高級ソファ。それに向けて、僕は疾走した。

即座に到着。

脆弱そうなソファーを見下ろして、手をかける。

そして砂塵が舞うほどの勢いと速さで、ソファーを無理矢理引っ張ってくる。

自分が元居た場所まで瞬時に引っ張ってくると、高鳴る鼓動と共に

にソファアへと滑り込んだ。

ティッシュ箱とリモコンの準備も完了。

さあ、お楽しみ鑑賞会の始まりだ。

そして僕は、ラベルに『快感巨乳娘』とあるテープと『関東殲滅戦』とあるテープを両の手に取って、見比べた。

どちらを先に見るか。

少し考えたあと、僕は『関東殲滅戦』とラベルにある方のテープを、テレビデオのビデオの口にぶち込んだ。

卑猥な口が僕のテープを吸い込むと、中のヘッドがテープと触れ合って信号を送り、快樂の再生を始める。

ジジジジ。

ノイズ混じりの映像と音声、過去の記憶を映し出す。

それは、戦時中に僕達が片手間で撮影したものだ。

絶え間ない阿鼻叫喚、幾通りの悲鳴が聞こえ始めた。

血と死体が、映像によって鮮明に蘇る。

映像と音声が、僕の中の破壊と破滅の感覚、鉄と錆の臭い呼び起こした。

これは、人類史根絶の記録。

僕達が世界を蹂躪した日々。

虐殺に次ぐ、虐殺。

殺戮の獣となった僕達が始めた、栄光ある人生ゲーム。

そこには、暗闇で血に染まった爪を磨く妹と、光る目で世界を見つめる僕が、ありありと映し出されていた。

僕は玉座に座り、強姦の様を眺める。

究極の自由を手に入れた兄妹が、世界を陵辱し人々を硬直させる様を眺める。

変わらないことなど何もない。

けど本当は、ずっと変わらないままでいたい。

皆、そう思っていたはずだ。

だから、僕達がそれを変えた。

変化が加わり、変わらないままに留めさせた。

そして世界は、僕達の実行力の前に敗北し、跪く。

僕達は世界の支配者になった。

無二の支配者に。

そう、今のこの地球上には、僕達以外もう誰もいない。

僕達が壊せる人間は、一人としていなくなった。

だから僕はこうして、過去の記憶で自分を慰める。

彼方に消えて現存しなくなった享樂にすがりつく。

彼女と起こした変革を見つめ、その時の感覚を必死で思い出そうとする。

僕と彼女は、唯一の同種だった。

一心同体の存在。

意識はしなくとも、お互いなしではもはや生きてはいけない。
まるで、聖書の中のアダムとイブ。

そうして今までの夜空は終焉を告げ、誰も見たことがない朝が訪れた。

新たな創世記が、再び始まる。

それでも変わらない箱の中の僕と、
頼杖をついて過去を眺めて
いる僕。

二人の目が一瞬だけ見つめ合った。

箱の中で陽光を受けた兄妹は、
知らん顔をして無邪気に笑っ
ている。

それを見て、僕も静かに微笑んだ。

(後書き)

これは僕の初期作品を加筆修正したものです。初期作品なので、尖って色々な要素がない交ぜになってます。

異常で不条理な世界観を神話やゲーム的に、コミカルな形で描き出したくてかなりぶっ飛んだ話を書きました。

当時は(今もですが)、掌短編レベルでスケールがデカくて刺激的な話を創りたいと思ってました。血生臭い暴力性、サディズム・マゾヒズム的描写も意識的に入ってます。

少し妹萌え的な物にも挑戦してますが、実際僕には妹がいるので余りリアルではないですね。世界が滅亡した後も妹と一緒にいたくないです。

完成後に思ったのが、人間離れた危険な二人というとドラゴンボールの人造人間姉弟を思い出しますね。

僕としては日本の創世神話であるイザナギとイザナミを意識して着想を得ました。このクレイジー兄妹も創世のアダムとイブです。

後半は何かに取り憑かれて書いてました。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5666f/>

Crazy for you

2011年3月17日03時00分発行